

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホーム ひまわり A 棟		
所在地	郡山市安積4丁目334-1		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の能力を出来る限り活かして生活して頂けるように支援しております。季節の食材を生かした手作りの食事を提供し喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 食事は、各ユニット毎の献立とし、利用者の好みを大切にその日の希望や意向を確認しながら、季節の食材や頂き物、自家菜園で収穫した野菜をベースに調理している。誕生日や季節行事等でも利用者の好みに応じてケーキやスイーツ、外食、出前等で楽しんでいただけるよう支援している。
2. 協力医の24時間往診体制が取られ、整形外科の往診も行われている。医師・看護師・家族・事業所が連携を密にし、利用者が安心して医療が受けられるよう支援している。また、重度化や終末期のケアについて、計画的に職員研修を行い、利用者が安心して暮らせるように看取り支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の思いや意識を盛り込み、分かりやすい言葉で作成した。毎朝の申し送りの際に再確認し実践に繋げている	事業所理念を玄関・事務室に掲示し、朝のミーティングで唱和し理念を共有しながら日々のサービスに繋がるようにしている。また、会議等の中で理念に沿った支援が行われているか話し合い、見直しも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃や敬老会等に参加しており、夏祭りでは地域の方の来訪もある。近隣の住民の方から野菜やお花等の差し入れもあり日常的に交流している。	町内会に加入しており、地区クリーン清掃や市の敬老会に利用者・職員が参加している。また、近くの公園等へ散歩し挨拶を交わしている。事業所の夏祭りに地域住民の参加を頂き、フラダンス・影絵・大道芸等のボランティアを受入れ、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献までは至らず、今後、関係機関や職員と話し合いながら取り組んでいきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催し近況・課題について協議し意見をいただいている。利用者の方にも参加していただき思いを話して頂いている。職員会議にて全職員へ報告している。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では、事業所の運営状況や利用者状況、行事、事故報告等を行い、委員からの質問やアドバイスを頂き、サービスに反映出来るよう努めている。利用者の参加もあり、利用者の意向をサービスに活かせるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と連携を図り地域情報を教えていただいたり、課題にむけた相談をしている。	市の担当者とは、生活保護世帯の受入れ等について相談し、スムーズに受入れが出来るよう、協力関係を築いている。また、市の相談員を受け入れ、アドバイスを頂きながら、運営に反映するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて勉強会を行い全職員が理解し実践している。家族様から要望があった場合は充分説明と話し合いを持ち納得を得られるようにしている	身体拘束に関する研修会を計画的に開催している。身体拘束の具体的事例を資料により提示し、拘束がその人に及ぼす影響等について全職員で理解しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間帯だけ施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解と遵守を勉強会を通して確認し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して制度の理解や知識を高められるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約・料金改定の際は十分な説明のもと、不明な点を随時確認しながら進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な事でも親身になり話しやすい環境作りに努めている。日頃の会話や日常生活の中から思いを汲み取りサービスに反映できるよう努めている	運営推進会議に利用者と家族の参加を得て、意見や要望を頂いている。また、日常生活の中で利用者の会話や言動から思いや意向を汲み取り、家族からは、面会時や行事等、来訪時に意見や要望を聞き、それを運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見・要望を聞く機会を設けており、自由に発言できる環境を整えている。また、日常の中でも言いやすい関係作りに努めている	代表者や管理者は、日頃から職員が意見や要望を言い易い風通しの良い職場づくりを心掛けている。全体会議やユニット会議、ミーティング、行事等で職員から意見や提案を聞き、出された意見や提案をサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や研修会の参加等、向上心を持って働けるように環境を整えている。また勉強会にてスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じて研修会に参加し、職員会議にて報告・内容を共有し実践に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所との情報交換会が毎月あり、相互訪問しながら、課題について話し合ったり、情報交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちを解消し、安心して生活できるようご本人の気持ちを受け止め信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時には、家族様の立場に立って丁寧に説明し、不安な事や要望等に耳を傾けながら信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、受付の段階から話しをよく聞き、御本人やご家族が必要とするサービスを見極め、現状に即したサービスが提供できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、本人の出来るようなことを見つけ行って頂いたり、職員と一緒に作業する中で共に暮らす者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様も参加出来るような行事を考え一緒に楽しんでもらえるよう機会を作っている。面会時や電話、手紙等で利用者様の現状を伝え、家族様の思いを受け止められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や職員と馴染みのお店や病院に行く等で、これまでの関係が途切れないよう支援している。面会時にはお茶を出し、ゆったりと過ごせるよう配慮している。	家族や友人・知人の来訪時には、お茶を出して気兼ねしないでゆっくりして頂くよう配慮している。また、行きつけの理美容院への送迎を行い関係が途切れないよう支援している。家族の協力で温泉旅行や通院の際に、外食、買い物をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や利用者様同士の関係も把握し合えるような支援ができるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても困った時はいつでも相談して頂けるように話しをしている。また、移住先の関係者に情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から思いを把握し支援している。意思表示が困難な場合は家族等から情報を得て、本人の想いに沿った生活が送れるよう支援している。	日常の関わりの中で、利用者の何気ない会話や言動から、本人の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、家族からの情報を基に会議やミーティングの中で、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から生活歴や生活状況を聞いたり、本人との会話の中からこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や連絡帳を用いて一人一人の現状や変化を把握し、職員全員で共有しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で意見を出し合い評価しながら利用者様、家族様の意向や心身状況の変化をふまえて介護計画を作成している。	個別記録や連絡帳を基にカンファレンス、モニタリングを実施し、利用者と家族の意向を確認しながら、3ヶ月毎の見直しを行い、現状に応じた介護計画を作成している。また、心身状態変化時は、変化に即した見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の確認、申し送りや連絡帳にて情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況の変化に応じて支援方法を見直し、本人に合わせたサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや訪問理容、訪問販売等を活用している。また、地域清掃へ参加し地域の方々と関わりを持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、本人や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援している。また、往診体制も出来ている。	本人・家族の希望する医療機関で受診出来るよう支援している。月2回、協力医の往診があり、往診時は事前に生活状況や健康状態等を、医師に情報提供している。職員は「連絡票」で受診結果を共有している。また、かかりつけ医の受診は、家族対応とし、症状等により職員が同行支援しており、受診結果も共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が来園し健康チェックをしている。また、体調の報告を主治医への報告や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報交換を行い状況を把握し対応できるよう努めている。退院時は再度情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、医師及び家族と十分に話し合い家族の意向をもとにターミナルケアの実践に努めている。随時医師と連携し、密に家族様への報告をし、職員間で情報を共有しながらチームで支援に取り組んでいる。	契約時、本人・家族に対し、重度化した場合や終末期に於けるケア対応の指針を説明し、事業所で対応可能な内容について理解を得ている。また、重度化した場合等は、利用者の意向を踏まえ、医師と職員が連携を図り、安心して終末期を迎えられるように、家族の意思確認をしながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には適切な対応がとれるようマニュアルを用いて勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、水害時の避難場所の確認や連絡網訓練等を毎月実施している。運営推進会議で協力を呼び掛けている。	年2回の総合防災訓練(消防署立会1回)を始め、毎月災害発生時を想定した通報訓練を実施している。地震や風水害を想定した避難訓練は実施されていない。非常時の災害に備え、飲料水や食料等を備蓄されている。地域との協力体制は、まだ構築出来ていない。	夜間時の火災、地震や風水害を想定した避難訓練を数多く実施し、全職員が避難誘導出来るよう訓練してほしい。また、地域住民、消防団などの協力体制の構築に向けた検討を進めて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない話かけや対応をしている。	「接遇」や「プライバシー保護」に関する内部研修を通じて、職員の接遇スキルの向上を図り、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。また、利用者の個人情報については、施錠付ロッカーで管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるような個々に合わせた声かけを行い自己決定できるよう工夫しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。希望があれば可能な限り実現できるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう好みを把握しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食べたい物を伺い献立に取り入れたり、個々の能力を活かしながら調理や盛り付け、片付け方をお願いしている。職員も一緒に食卓を囲み外食や出前も行い、食事が楽しめるよう支援している。	利用者の意向や季節行事、誕生日等を考慮しながら、日々献立の策定を行っている。食材の調達は、2日に1度利用者と一緒に買い物に出かけ、事業所内で調理をしている。調理の際は、利用者にごしらえや盛り付けを手伝ってもらい、一緒に食卓を囲みながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量表を用い、摂取量が把握できるよう努めている。個々に合わせた声かけや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを把握しながら仕草からも排泄サインを確認し、羞恥心に配慮しながら利用者に応じた声かけや誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することで、トイレで排泄できるよう支援している。また、誘導や介助、失禁時の対応については、言葉遣いや対応方法に留意し、羞恥心や不安の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、水分を多く摂って頂いたり、適度な運動や腹部マッサージを支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じた入浴ができるように支援している。入浴剤や季節のしょうぶ湯、ゆず湯などで入浴が楽しめるよう取り組んでいる。	利用者のその日の希望を確認し、週2回以上入浴支援を行っている。また、入浴剤や、ゆず湯、菖蒲湯等を使用し、利用者との会話や手足のマッサージ等を楽しみながら、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々「状況」に応じ、休息や安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示や、薬剤情報を確認し共有化を図っている。変更があれば密に経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう一人一人の力を活かした役割をお願ひし、都度、感謝の言葉をかけている個々が楽しめるよう活動を提供して、気分転換が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食等に出かけている。また、初詣、花見、ドライブ、紅葉、紅葉狩り等、季節に合わせた外出支援を行っている。家族様の協力が出かけるかたもいる。	事業所の敷地内や周辺の公園での散歩、近所のスーパーでの買い物等、日常的に外出支援をしている。毎月行事担当者が企画を立て、花見・紅葉、外食等に出掛けている。また、個々人の利用者の希望については、家族の協力を得ながら、ドライブ・外食などの機会も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようにしている。携帯電話を所持し、自由に利用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計、湿度計にて確認しながら温度や湿度を調節し、光の具合やテレビの音量等に気をつけ快適に生活して頂けるよう配慮している。季節に合わせた装飾をし、心地良い空間作りに努めている。	日々の清掃や温度・湿度管理を適切に行っている。壁には、行事の記念写真や季節を感じさせる飾り付けを利用者と職員が一緒に行い、利用者が落ち着いて生活が送れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他、たたみやソファがあり、自由に過ごして頂いている。暖かい日にはテラスにて日光浴をし過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	好みの物や馴染みの物、写真等を持ち込み、利用者と家族の意向に添った部屋作りをし、安心して心地良く過ごせるよう支援している。	各々の居室には、テレビや家具、仏壇、記念写真など、馴染みの物を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。また、日々居室の掃除や温度・湿度管理を適切に行い、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には分かりやすい目印をつけ、場所が把握できるよう工夫している。		